

		現在の取組及び状況		今後の改善計画・目標
			判定	
保育内容				
全体的な計画の作成				
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。	A	今年度の保育の実態や子どもの状況や発達段階をふまえて、全職員で評価・見直し・共通理解をし、園の特色を生かした保育が実践できるようにする。
環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開				
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	保育室や玩具の消毒、遊具の素材・配置などの工夫をし、常に、清潔で安全、子どもたちが安心して心地よく過ごすことのできる環境を整備をしている。	A	次年度は、園児も職員も増えるため、朝・夕の合同保育やそれぞれのクラスの保育環境、5歳児の午後過ごし方など、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整えていきたい。
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	朝のスタートから、子どもたち一人一人との挨拶や受け止めを大切に、月2回の保育会議で子ども理解を深めながら、全職員で子どもたちの成長を見守っていく体制作りをしてきた。	B	子どもの育ちや保育の取り組みの様子をクラス毎まとめ発表した事で、保護者理解につながった。職員会議での子ども理解を大切に、子どもの要求に適切に対応できるよう、職員研修や共通理解を深めていきたい。
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	一人ひとりの発達に合わせて、言い過ぎない、指示が多くならない、認めるを大切に、子どもの主体性や自分でやろうとする気持ちを尊重した言葉かけや援助を心掛けている。	B	個々の職員の資質向上、また、個人差や動線に配慮した環境の工夫や、絵表示などで自分から進んでできる援助の工夫をする。
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	子どもが自発的・主体的に生活と遊びが出来るよう、月毎に指導計画をたて、振り返りの反省を生かしながら、環境構成や援助をしている。畑での夏野菜栽培やさつまいもの収穫体験。近くの神社への散歩を通して秋の自然物にも触れる事ができた。	A	コロナ禍で、他園や地域との関わりをもつ事ができなかったが、八雲神社での今井幼稚園との交流や、花火教室や歯磨き教室なども予定している。畑での栽培も増やしていきながら、豊かな人との関わり場の場や機会を大切にしていきたい。
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	子どもとの愛着関係を基盤に、一人ひとりの子どもの状況に応じ、ベットや椅子、玩具など保育室の環境を整え、情緒の安定や十分な探索活動ができるよう配慮してきた。	A	絵本の読み聞かせや、保育士が愛情豊かに優しく語りかけるなど応答的な関わりが、子どもの成長につながり、発表会を通して保護者にも感じてもらう事ができた。次年度も継続していきたい。
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	子どもが自分でしようとする気持ちを尊重し、探索活動が十分に行えるような環境の整備に心がけている。また、自我の育ちを受け止め、適切な関わりができるよう努めている。	A	職員会議で、子どもの人権や自我の育ちの受け止めについて、話し合いの場をもち、それぞれの職員の資質向上を図る。
7	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	3、4、5歳児が、集団の中でそれぞれの良さや個性が生かされ、友達とともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境構成や援助に努めている。	A	来年度は、以上児の人数も増える。引き続き午前の保育だけでなく、4・5歳児の午後の活動（4歳運動会後午睡なし）内容の充実や環境設定の工夫をしていく。
8	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	特別な支援を要する子には、職員会議で共通理解し子どもの状況に応じた保育ができるようにし、専門機関への相談や助言を受けたり、保護者面談をしたりしている。	B	保護者との連携をより密にして、子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成したり、専門機関からの相談や助言を受けたりしていく。
9	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	朝・夕保育でも、子どもの発達や状況に応じて、環境構成の工夫や職員体制の配慮をし、朝のスタートから家庭的でゆったりと安心して過ごす事ができるようにしている。	B	年齢の異なる子がお互いを尊重し合いながら関わる姿が見られるようになった。保育士間の引継ぎが不十分な日もあったので丁寧な保育を続けていきたい。
10	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	幼少中一貫研や近隣の幼稚園の公開保育、就学時研修に参加し、就学を見通した保育内容にも配慮している。	A	今年度は1名の卒園児だったが、今後人数も増え多方面への就学が予定されるので、個々の対応や保育内容の充実を図っていく。
健康管理				
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	朝は個々に膝に入れ読み聞かせをしながらの体温測定・健康観察や、うつ伏せ寝など午睡チェックをしている。	A	他のクラスの子の健康状態に関する情報の周知・共有、一人ひとりの子どもの心身の健康状態の把握を大切にしていきたい。
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	内科健診・歯科健診は年2回ずつ行っている。	A	健診結果は、その日に保護者に伝え、欠席の子は後日個別に受診してもらうよう連絡している。
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	医師からの診断を受け、食事の提供においても、他の子どもたちとの相違に配慮している。	A	全職員でアレルギー児対応の共通理解をし、適切な対応をしていく。
食事				
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	ゆったりと落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。	A	ジャガイモや大根など、畑で収穫した物を給食やクッキングで食の喜びを感じられるようにする。
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	発育状況により調理の工夫をし、行事食やコリンメニューを取り入れている。	A	給食会議や、栄養士が食事の様子を見る機会を通して、より子どもが食事を楽しむことができる工夫をしていく。
子育て支援				
家庭との緊密な連携				
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	連絡ノート・家庭通信・メール・登降園時を通して、家庭との連携を密に行っている。	A	様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援していきたい。
保護者等の支援				
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	朝の受け入れなど日々のコミュニケーションを大切に、保護者面談を実施している。	B	様々な場面を活用しながら、一人一人の保護者に応じた支援や相談対応ができるようにする。
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	虐待等権利侵害の疑いのある子の実態はないと把握しているが、子どもの少しの変化に気付けるよう努めている。	A	虐待等権利侵害の兆候を見逃さないよう、子どもの心身の状態、家庭での養育状況の把握に努めている。
保育の質の向上				
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	開園1年目で、お互いを尊重し合いながら、それぞれに保育の質の向上に努めているが、学び合いの場やコミュニケーション不足を感じている。	B	職員会議での、子ども理解や保育の実践の振り返り研修の工夫・実践をし、保育の質の向上に努めていきたい。